



新幹線がやって来る！ 男女が共に生きやすい社会づくりにつなげよう

「男女共同参画社会をつくる—それは、女性にとっても男性にとっても生きやすい社会をつくること」。男女共同参画会議は7月に出した「第3次男女共同参画基本計画策定にあたっての基本的な考え方」のはじめに、こう掲げました。さて、東北新幹線全線開通も、私たちが生きやすい社会づくりの一翼としたい。様々な視点から考えてみることにしました。



新幹線全線開通と男女共同参画？

アンジュールはこう読みました

男女共同参画社会の実現に向けての取組みは、国際連合を中心とした「平等・開発・平和」という目標達成のための世界規模の動きと軌を一にして進められてきました。新幹線開通も「平等・開発・平和」とつながるのではないのでしょうか。多様な立場の人が、職や医療や学問などのチャンスを得る。産業界の力が今まで以上に開発される、そして新幹線を利用してライフワークも充実する平和な社会を持続することに一人ひとりが努める。こんなことが考えられます。新幹線全線開通を男女が共に生きやすい社会づくりにつなげましょう。

私にも言わせて…

「青森を代表しよう」

今まで学会や旅行で何ヶ所か訪れて印象が強いのは風景でも、食べ物でもなく、なぜかタクシー運転手の対応である。どんなに素晴らしい自然や食事をアピールしても、やはり人なのだ。場所柄、当クリニックは県外の患者様が来院されるが、勝手ながら私も青森代表の一人として接する様にしている。(あおもりペイクリニック副院長 大出華子)

「わたしたちも利用者」

アンケート結果から

昨年10月、ネットワークA・Lでは「新幹線開通に関する身近な市民アンケート」を実施。回答250名。「出かけやすくなる」「一度は乗ってみたい」と、利用者としての期待と喜びの声が多かった。新駅までの交通手段は家族の送迎も含む自家車利用が一番多く、以下はバス、タクシー、電車の順。便利になるといいなあ。(ネットワークA・L 滝淵志津子)

「魅力発信」

魅力いっぱいの中で生活しているのに、青森の素晴らしさに気づいていない人が多いようです。視点を変えて周りを見渡してみるときっと発見できるはず。ここに住む私たちだからこそ言える魅力スポットを他の人に伝えてあげましょう。小さな力も皆が伝えると大きな「おもてなし」です。(小原流いけ花・豊扇会代表 伊藤豊扇)

東北新幹線全線開通



私の視点

全線開通により何が変わるか、何を变えたか

「もつともつとあおもりファンをつくらう！」をコンセプトに起業した蒔苗さん、今年4月に活動拠点を青森から東京に移した工藤さん、ドメスティック・バイオレンスに取り組んできた鹿内さんからのショートメッセージです。

夢と可能性を乗せて

キャリアアカウンセラー

工藤 倫子



青森から東京に出張に来るたびにいつも思った。平日の新幹線や飛行機はビジネススーツに身を包んだ男性ばかりが目立つなあ。新幹線開通に伴い、もつと色んな顔ぶれが増えると思う。学生や主婦や仕事から退いた人。色んな人の中で「今日は有楽町でセミナー」「今日は六本木の美術館に」そんな会話が飛び交って欲しいと思う。それが決して贅沢ではないということに気付いて欲しい。そんな場所に身を置くと、そこにかけた対価以上のものが得られるはずだから。青森の人にとっても優秀な人が多いのに「自分を磨く」ことには慣れていないのかもしれない。だから気付いて欲しい。自分にはまだまだ可能性があると。新幹線は青森の人の夢と可能性を運んでくれると私は信じている。

はやぶさで先見の明を

NPO法人ウイメンズネット青森

理事長 鹿内 文子



新幹線とDVに共通するのはトンネル？なぜなら出口は人とつながること、明るい暮らしへの扉が開かれると思うからです。私たちは、重大な人権侵害であるDVをはじめ、女性に対する暴力の被害者支援、予防教育、調査研究等の事業を行ってきました。東北で2番目のシェルター運営には、前理事長・故三上久美子さんの命をかけた日々があったことを忘れません。最近DVに混在している児童虐待問題もあります。被害者に寄り添った支援がスムーズに行われるように、新幹線効果で広域連携のネットワークが推進されることを期待しています。来年の全国シェルターネットワークシンポジウムは、仙台で開催される予定です。先見の明を「はやぶさ」に乗って学びませんか。

意識を持ち続けることの大切さ

The企画エルサーチ株式会社

代表取締役 蒔苗 正子



人も組織も外からの刺激をきっかけに変わったり、新たな展開を発見することがあります。残念なことに外からの刺激がないと気づけなかったり、内部の声には耳を傾けないが外部からの声には敏感に対応できたりするものです。東北新幹線の全線開通後に広がる人や文化・情報の交流によって、私たちが刺激を受ける場面は増えることでしょう。結果、個性的な起業をする人には増えてほしいと思います。また、外部からの声があふくことで市民議論が起きる、なんてこともあるかも知れません。その際にどんな議論を展開するのか、市民の知恵が問われることでしょう。例えば、「誰もが役割や個性を自然に選択できる青森」がテーマとなるかも知れません。「活かしたい」と意識を持ち続けることが大切だと思っています。

こんな取り組み あんな取り組み

◆新幹線喜び音頭

「開業までの節目節目に、この『新幹線喜び音頭』を披露して、できるだけ多くの方に関心を持っていただきたいと思います。特に一般主婦層に働きかけることで、12月に起こる青森県にとっての世紀の大出来事に気持ちを高めていただければ(会長の白鳥淳子さんと)、青森民謡研究会のみなさんは市内を飛び回って広めています。9月26日(日)のアルコールフェスタ(11:20)、10月24日(日)の青森市男女共同参画都市宣言記念月間事業「じゃらん・じゃらん展」でも披露目します。みんなで踊ってみませんか。作詞作曲 小倉尚継 歌 鳴海としえ 振付 青森民謡研究会

「歌詞から」
夢が広がる 青森の空
縄文時代も同じこと
人の行き来のある所
幸せ 喜び
花咲き匂うでしょう



(写真)9月14日現在の新青森駅、撮影協力:松山佳子

◆ラブ青森サポーター

新幹線で訪れる方々を温かくお迎えしたい。そのためには、私たち自身が青森市の魅力を十分に理解し、「まち」に誇りと愛着を持たなくては！「青森の魅力の発信者集合！」に、名乗りを上げた市民は149人(8月25日現在)。イベントのお手伝い、青森の魅力やおもてなしの必要性を口コミで伝えるなど、また「この対応はよくない。こうしたら改善できる」というポイント教示を取入れた冊子づくりなど、様々な活動があります。資源を磨き、「住んでいたい」感のアップにつなげようという取り組みでもあります。活動期間平成24年3月末まで。会員登録はしなくても、みんなで、魅力の口コミ発信者になりました。問合せ先 新幹線開業対策課 017-734-2319



◆まだまだあります

その他にも、市内の主な観光地を巡回する「あおもりシャトル」ルートバス(ねぶたん号)の運行。「一路青森」のフラッグや新幹線開業応援ソングCD「サエラ」恋して青森、東琢磨「一路青森」君は今、旅人の貸出も行っています。また、のつけ井・味噌カレー牛乳ラメン・寿司クーポン等、「美味しい青森」もしっかりPR中です。問合せは右記の新幹線開業対策課

